第63号

Ħ 次

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

1 ポートエッセイ 「列島強靱化の視点からも各地の港湾整備に力を」

~日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭~

- 2 トピック
- ●『港湾における今後の地震対策・津波対策』講演会を開催

(北海道開発局 港湾空港部)

●『たてやま海まちフェスタ2012』に参加しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

- ●『瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定』締結式について (瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局)
- ●愛媛県二神島沖船舶衝突事故による流出油防除作業について

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

●~考えよう私たちの未来~ 『国際バルク港ミーティング in 志布志』

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

3 お知らせ

1 ポートエッセイ 「列島強靱化の視点からも各地の港湾整備に力を」

~日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭~

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

昨年3月11日の大震災で日本海側の港湾が大きな救援拠点としての役割を果たしま した。昨年、日本港湾協会から「ポート・オブ・ザ・イヤー2011特別賞」に秋田港 や能代港、酒田港、新潟港の4港が選ばれたのも、被災した太平洋側港湾の代替機能を 発揮したことによるものと受け止めています。

今年度に入っても、東京などに出向くと日本海側への関心が高まっていると感じるこ とが多くなりました。その背景には、首都圏や太平洋側が震災に襲われたときの対応を 考えざるを得ない状況があるように思います。マスコミでは富士山が噴火した場合や首 都直下地震、東海・東南海・南海の3連動地震など、最悪の事態に備えての報道が相次 いでいます。太平洋側が大きな災害に見舞われた際、日本海側からの救援が重要である

ことが共通認識になりつつあります。

そんな中で6月下旬、日本海側の総合的拠点港に選ばれた新潟東港に新しいコンテナ 埠頭が全面供用いただきました。東港は昨年、3・11大震災の救援拠点として大きな 役割を果たし、コンテナ取扱量が前年比21%と急増、念願の20万TEUを突破しま した。LNG輸入量はさらに伸びが目覚ましく、前年比62%増を記録。電力の安定供 給に大きく寄与しました。

「太平洋側の安全のためにも、日本海軸が必要」との認識が得られ、新潟県内で切れている日本海東北自動車道が山形延伸へ大きく動き出しました。新潟は酒田や秋田の港としっかりとつながることになります。さらに日本海側と太平洋側を結ぶ横断軸の整備を進めれば、列島の安全度は飛躍的に向上します。

「列島強靱化」の視点を大きく入れて、各地域の港湾整備を前進させましょう。

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

### 2 トピック

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

#### ●『港湾における今後の地震対策・津波対策』講演会を開催

(北海道開発局 港湾空港部)

平成24年6月25日(月)、札幌第1合同庁舎2階講堂において北海道港湾協会、北海道港湾振興団体連合会の主催、北海道開発局の共催による「港湾における今後の地震・津波対策」講演会が開催されました。また、併設された「港パネル展」では、講演会会場前ロビーにおいて、東日本大震災関連のパネルの展示も行われました。本講演会は、東日本大震災での地震・津波の甚大な被害に鑑み、改めて地域の安全・安心な生活を営むにあたっての港湾の役割について広く情報提供することを目的として開催されました。

講演会では、はじめに「東日本大震災の被害と 安全・安心な地域づくり」と題して、日本全国で大きな課題となっている今後の地震・津波防災対策について、日本の津波の権威である東北大学災害科学国際研究所の今村教授(副所長)による基調講演がありました。続いて国土交通省港湾局の丸山海岸防災課長より東日本大震災における港湾での被災及び復旧・復興状況や、先日の国土交通省交通政策審議会港湾分科



東北大学災害科学国際研究所今村教授による基調講演

会防災部会にて答申が出された「港湾における地震・津波対策のあり方」について報告がありました。

当日は港湾管理者の他、一般市民の参加者も含めて約300名の参加があり、講演内容を熱心に聞き入っていました。

# ●『たてやま海まちフェスタ2012』に参加しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

平成24年7月1日(日)に館山港の「"渚の駅"たてやま」をメイン会場として「たてやま海町フェスタ2012」(たてやま海まちフェスタ実行委員会・館山市・館山市教育委員会主催)が開催されました。

このイベントは館山市の推進する「海辺のまちづくり」事業の一環として、市民や観光客が海や船に親しむ機会を創出し、「海辺のまちづくり」への理解を広めることを目的しており、本年で11回目になります。



「べいくりん」船内見学会

当事務所は清掃兼油回収船「べいくりん」の船内見学とパネルと模型による展示を行いました。当日の天候は時々小雨混じりではありましたが、船内見学には約450名の来訪者があり盛

況でした。特に「べいくりん」のスキッパー(海面からゴミを拾い上げる装置、別添写真参照)の操作と模型の展示が見学者の興味を引いていました。

## ●『瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定』締結式について

(瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局)

平成24年6月1日(金)、大分県別府市亀の井ホテルにて、瀬戸内・海の路ネットワーク 災害時相互応援に関する協定締結式を行いました。

この協定は、平時は瀬戸内海の海の路を通じた地域振興や魅力発信により地域間の 絆を深め、災害時には平時に構築された有機的な海の路のネットワークを活かして、相互 に応援を行うことを目的としています。

締結式には平成24年3月29日に締結した28会員に、5月22日に締結した6会員を加えた計34会員のうち、13会員である市町村長が参加し、まず始めに協定運営協議会幹事市である入山欣郎 大竹市長より、「多くの会員がこれからの参加を検討することで、さらなる協力体制の構築が期待でき、また本協定を通じて、海ネット会員の絆が更に深まることを期待しています。」との開会挨拶があり、出席者の紹介、締結状況の報告を行い、来賓の福田功前国土交通省大臣官房技術参事官より「重要な視点として早期の復旧・復興を果たすためには、海上輸送の特性を生かして、事前に災害時の相互補完のネットワークを確立しておく事が必要であり、その様な点からも、皆様方の取り組みが大いに参考になるものと考えておりますので、今後なお一層のご努力をされることを期待しています。」との閉会挨拶をいただきました。

また、最後には11市1町1村の13首長による記念撮影を行いました。

# 協定締結市町村 (平成24年5月22日現在)

(大阪府)貝塚市、高石市、岬町

(兵庫県)姫路市、南あわじ市、播磨町

(和歌山県)海南市

(岡山県)玉野市

(広島県)竹原市、三原市、尾道市、大竹市、廿日市市、江田島市、坂町

(山口県)下関市、宇部市、山口市、防府市、光市、柳井市、山陽小野田市、周防大島町

(徳島県)小松島市

(香川県)高松市、丸亀市、坂出市

(愛媛県)松山市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、上島町

(大分県)姫島村



# 【写真左より】

高石市長 阪口伸六、 光市長 市川熙、 下関市長 中尾友昭、 八幡浜市長 大城一郎、 岬町長 田代堯、 竹原市長 小坂政司、 大竹市長 入山欣郎、 宇部市長 久保田后子、 防府市長 松浦正人、 江田島市長 田中達美、 山陽小野田市長 白井博文、 黒田晋、 玉野市長 姫島村長 藤本昭夫 (敬称略)

#### ●愛媛県二神島沖船舶衝突事故による流出油防除作業について

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

平成24年6月4日午後10時10分頃、愛媛県松山市二神島西南西約1.5キロメートルの海上において、貨物船「第五天光丸」(199トン)と押船「翔洋丸」(121トン)の衝突事故が発生しました。この事故によって、押船「翔洋丸」が沈没し油の流出がありました。

当所では、第六管区海上保安本部からの要請を受けて、海面清掃兼油回収船「いしづち」及び港湾業務艇「くるしま」を出動させ、沈没した海域付近にて防除作業(放水・航行拡散)や情報収集作業を実施しました。



航行拡散中の「いしづち」

# ●~考えよう私たちの未来~ 『国際バルク港ミーティング in 志布志』

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

5月20日、(社)新大隅青年会議所主催により『国際バルク港ミーティングin志布志』が開催されました。当団体は、大隅地域の会社経営者の後継者となる若い世代で構成しており、地元地域の活性化のため、様々な活動を行っているものです。

今回は、昨年5月に志布志港が国際バルク戦略港湾に選定されたことを受けて、地域資源である港を理解し、活用することで、志布志及び大隅地域の発展に繋がるのではないかという考えのもと、当事務所に志布志港の現状や今後の展開について、出前講座の依頼がありました。

ミーティングでは、当事務所からの概要説明後、各班に分かれて志布志港及び臨海部を活用した未来の志布志についてグループ討議が行われ、「海岸を整備する」「デートスポットや魚釣りができるような憩いの場が欲しい」といった意見や「観光船を誘致する」「特産品の輸出品を創出する」といった意見等、ソフト・ハード両面の意見を頂きました。中には、「もっと港の施設をアピールして欲しい」「バルク港湾の整備は、地域にどの様な効果をもたらすのか」といった意見もあり、各班での討議は時間があまり無い中での議論でしたが、皆さんの地元に対する熱い想いを感じることができました。



志布志港湾事務所では、国際バルク戦略港湾やコンテナバースの整備など港湾の政策について、地域の皆さんに理解を深めて頂くため、出前講座の取組を積極的に進めたいと考えています。

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

#### 3 お知らせ

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

\*:\*:\*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 \*:\*:\*:

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL:03-5776-0630 FAX:03-5776-0631

e-mail: bcf06323@nifty.com

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*: